

犬死しないために

志村 良知

犬死にとは、ある目的を持つ集団に属する人がその志半ばで殺され、しかもその目的は集団として達成できなかった。という状況での死を指す言葉らしい。縄張り争いで鉄砲玉として飛び込んであっけなく殺され、組は壊滅というようなときの三下の死は犬死であろう。

我々の歳で志半ばでの憤死、ということとはもうないが、現役時代には期待されて始めたプロジェクトで降格、左遷などに遭った上にプロジェクトは失敗、さらに後からA級戦犯扱いという、犬死より酷い扱いを受けた人もおられるであろう。

犬という字は本物ではないという意味を含み、犬死とは本当の人の死ではない、犬が死んだようなものだという意味らしい。ずいぶんとひどい言葉であるが、最近でも馬鹿馬鹿しい死に方という意味に使われることがある。

我々の歳で他人から「馬鹿馬鹿しい」と思われる死に方といえば、転落死、歩行時の交通事故死が典型であろう。ホームドアが整備され、ホーム転落の恐怖は減ったが、階段やエスカレーターでは両手を空け、手摺にしがみつけるよう端を行くにはしくはない。荷物で手が塞がっているときはエレベーターを探そう。自宅の階段も段差も危険である。

高所作業時の転倒転落事故も少なくないらしい。特に脚立・梯子には近寄らないのが安全である。今では便利屋さんというビジネスの人がいて電話一本で何でもやってくれる。

道路横断も慎重に。信号がある場合は、先駆けせず、全員が動き出してから動く、点滅し始めたら踏み出さない。信号が無い場合は左右両方からの車が確実に止まるのを辛抱強く待つ。車は止まってくれることが多いが。バイクや自転車は見えにくいし、まず止まらないので歩行者優先と強気になってはいけない。横断歩道でないと道を渡るのは論外の暴挙である。

最後に暴力。こじれて激高するクレマーの半分以上は六十代以上だそうである。些細なことでも諍いになって若い人に殴られたり突き倒されたりしないように自粛しよう。